



# 集中講義

# 近現代日本の仏教と マルクス主義



(日本研究基礎論 I)

講師：近藤 俊太郎 (本願寺史料研究所)

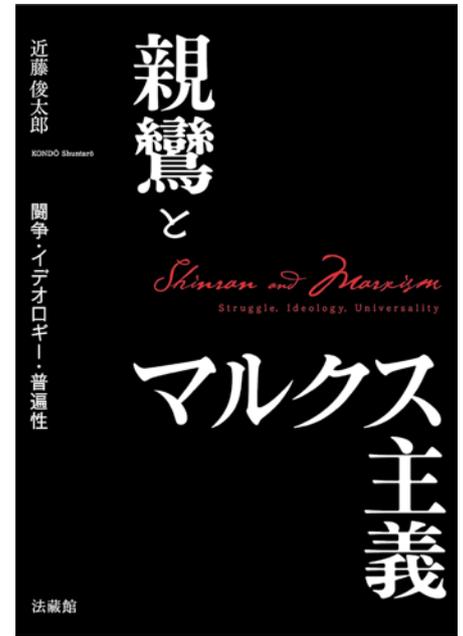
日時：2024年1月30日から2月2日 教室：川内マルチメディア教育研究棟 M304

## 授業の目的と概要

これまで近現代日本における仏教とマルクス主義の関係は単純化して認識されがちであった。それは恐らく、マルクス主義の宗教批判（阿片論）があまりに有名だからである。しかし、実際に仏教とマルクス主義は、多様な関係を構築してきた。本講義では、日露戦争期から戦後日本にかけての仏教とマルクス主義の関係を追跡することで、その多様性を捉えるとともに、近現代日本の思想史の一側面を照らし出してみたい。

## 授業内容

- ① ガイダンス
- ② マルクス主義とは何か
- ③ 社会変革と仏教 (1) 高木顕明と水平運動
- ④ 社会変革と仏教 (2) 佐野学
- ⑤ 宗教批判と仏教 (1) 「マルクス主義と宗教」論争
- ⑥ 宗教批判と仏教 (2) 反宗教運動
- ⑦ 宗教批判と仏教 (3) 反宗教運動への応答
- ⑧ 宗教批判と仏教 (4) 思想転向
- ⑨ 戦後思想と仏教 (1) 家永三郎
- ⑩ 戦後思想と仏教 (2) 服部之總
- ⑪ 戦後思想と仏教 (3) 二葉憲香
- ⑫ 戦後思想と仏教 (4) 反靖国運動
- ⑬ ワークショップ「近現代日本における改革と革命の宗教思想」(1)
- ⑭ ワークショップ「近現代日本における改革と革命の宗教思想」(2)
- ⑮ ワークショップ「近現代日本における改革と革命の宗教思想」(3)



※第13～15回は、近藤先生を含む研究者が登壇し、本科目の一環として開催されるワークショップである。



## 担当教員紹介:

1980年生まれ。2011年9月龍谷大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。現在、本願寺史料研究所研究員。専攻は近現代日本の思想史・仏教史。単著に『親鸞とマルクス主義——闘争・イデオロギー・普遍性』（法藏館、2021年）、『天皇制国家と「精神主義」——清沢満之とその門下』（法藏館、2013年）。共編著に『増補改訂 近代仏教スタディーズ——仏教からみたもうひとつの近代』（法藏館、2023年）他。第16回日本思想史学会奨励賞受賞。

文学研究科などに所属する院生も、履修登録・単位取得できる。

国際文化研究科の「日本研究基礎論 I」（KM28840）にご登録ください。

**履修科目届提出期限 2023年12月4日（月）**

問い合わせ先:

klautau@tohoku.ac.jp